

4月 April	5月 May	6月 June	7月 July	8月 August	9月 September	10月 October	11月 November	12月 December	1月 January	2月 February	3月 March
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

企画展示室・特別展示室

第125回企画展

4/19(土) - 6/22(日)

百花繚乱！浮世絵×文学



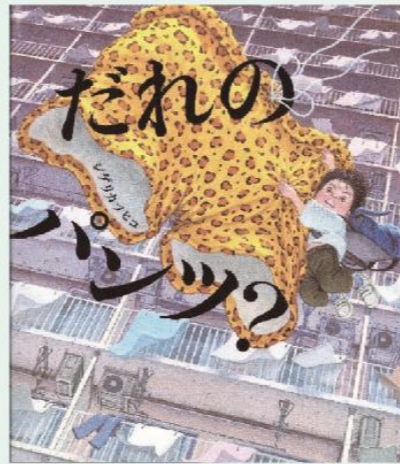
歌川広重・三代豊国「風流源氏 雪の眺」

浮世絵の中には、文学作品を題材にした作品が数多くあります。本展では、歌川広重の「東海道五拾三次」全五十五図を、十返舎一九の滑稽本『東海道中膝栗毛』の弥次郎兵衛と喜多八の旅の様子とともに紹介します。また、源氏物語や百人一首などの古典文学を題材とした、葛飾北斎や歌川国芳らの作品を多数展示します。

第126回企画展

7/19(土) - 10/6(月)

シゲリカツヒコ展



シゲリカツヒコ/絵・文『だれのパンツ?』(令和元年 株式会社 KADOKAWA)



シゲリカツヒコ/画「マンガばかりよんできた」

空想の世界をユーモアたっぷりに描き出す絵本作家、シゲリカツヒコ。緻密に描かれた絵、空撮のような不思議な構図、こっそり盛り込まれるお笑い要素など、魅力たっぷりの作品は多くの人を惹きつけています。本展では絵本原画 100点以上を展示し、シゲリ作品の奇想天外な世界に浸っていただけます。

第127回企画展

10/25(土) - 1/18(日)

愛の手紙展 — 友人・師弟篇 —



柳原白蓮(嬬子)書簡 佐佐木信綱宛 (明治44年6月1日付) 日本近代文学館提供

夏目漱石や芥川龍之介、与謝野晶子、谷崎潤一郎など、さまざまな文学者が友人や師弟に宛てた手紙を、エピソードとともに紹介します。日本近代文学館所蔵の第一級の資料を通して、文学者の素顔や本音に触れることができる展示です。



夏目漱石書簡 芥川龍之介宛 (大正5年2月19日付) (部分) 日本近代文学館提供

常設展示室

常設展示「土屋文明—その作品と生涯—」文化勲章を受章した日本を代表する歌人・土屋文明(明治23年(1890)9月18日~平成2年(1990)12月8日)の作品と生涯を紹介しています。



土屋文明は、明治23年、群馬県西群馬郡上郊村(現在の高崎市保渡田町)に生まれました。明治42年に上京し、伊藤左千夫のもとで短歌結社「アララギ」に参加。昭和5年には斎藤茂吉の後継として『アララギ』の編集発行人となります。昭和20年に川戸(現在の群馬県吾妻郡東吾妻町)に疎開し、『万葉集』の研究を深めます。戦後は東京・南青山に戻り、昭和28年には宮中歌会始選者となり、『万葉集私注』で芸術院賞を受賞。戦後の「第二芸術論」に対し短歌の価値を守った最大の功労者として短歌界を牽引するとともに、『アララギ』や新聞での選歌に力を注ぎ、96歳で文化勲章を受章、平成2年に100歳で没しました。



書齋

東京・南青山にあった旧宅の書齋部分を、常設展示室内に移築し公開しています。住居の設計は歌人で設計技師の近藤芳美が行いました。引戸がついた本棚や、窓ガラス手前にある辞典類を広げるための棚が特徴です。



「短歌の世界」コーナー

展示室中央部を取り囲む柱の中には、『万葉集』から近代以降まで、36人の歌人の人形が埋め込まれ、それぞれ1首ずつの短歌を紹介しています。その他、『新古今和歌集』(写本)をはじめとする三代歌集などの資料も展示しています。



持統天皇人形「三十六歌人」より



伝世尊寺定成筆『新古今和歌集上』(写本)

鎌倉時代中期~後期頃

土屋文明記念文学講座

土屋文明の功績を記念し、短歌にとどまらない様々なテーマの講座を年間2回程度開催します。うち1回は、土屋文明の誕生日である9月18日に近い時期に実施予定です。

